

様々な素材との出会いから始まる乳幼児期の造形活動

柴田学園大学 こども発達学科 氏名 工藤千華

TEL 0172-32-2289

FAX 0172-33-2486

顔写真等
(希望者のみ)

e-mail c-kudo@shibata.ac.jp

Web 等(該当するものがある方のみ)

キーワード

幼児の造形活動、保育実践、保育教材づくり

乳幼児期の造形活動は、人間の営みとして極めて根源的な「感じ、考え、行動する」という行為が多く含まれていて、人との関わりを形成するうえでも重要です。外で石ころを並べて何かの形をつくってみたり、新聞紙や空き箱を集めて何かをつくってみたり、造形的な経験は、子どもたちの手と土や紙、その他もろもろの材料との出会いから始まります。一片の木ぎれも子どもたちの遊びのなかではたちまち家になったり、自動車になったり遊び方は無限です。出来上がったものには正解も不正解もありません。

素材そのものを観察し、素材の持つ魅力、活かし方を学生と共に考え、実践的な活動について研究しています。

【実践的な活動として】「エリックカールの絵本から発想を得て」

まっ白な紙に自由に色を塗っていきます。真っ直ぐに塗ったり、ギザギザに描いてみたり、模様をつけたり、気持ちのおもむくままに色を塗っていきます。その中で、偶然にできた色の面白さを感じることができます。出来上がった色紙を使って最後は作品作りを行います。大きな画用紙に色紙をはっていき、思い思いの作品が出来上がりました。

